**第8章　事後学習ワークシート**

1.保育所保育指針には，1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容を考える上で，下記の事柄を基本事項としてあげている。保育所保育指針を参照しながら空欄に適切な用語を記入してみよう。

この時期においては，歩き始めから，歩く，走る，跳ぶなどへと，（　　　　　　　　）が次第に発達し，（　　　　　）の自立のための（　　　　　）も整うようになる。つまむ，めくるなどの（　　　　　）も発達し，（　　　　　），（　　　　　）の着脱なども，保育士等の援助の下で自分で行うようになる。発声も明瞭になり，（　　　　　）も増加し，自分の（　　　　　）や（　　　　　）を言葉で表出できるようになる。このように自分でできることが増えてくる時期であることから，保育士等は，子どもの（　　　　）を図りながら，自分でしようとする気持ちを（　　　　）し，温かく見守るとともに，（　　　　　）豊かに，（　　　　　）に関わることが必要である。

2．2歳児クラスの子どもとの関わりとして，不適切と思われる保育者の関わりにチェックを入れよう。

□(1) 保育者に受け入れられることにより，自発性，探索意欲が高まるが，まだまだ大人の世話を必要とする自立への過程の時期であり，子どもを認め，受け入れるなかで情緒の安定を図る。

□(2) 自分の気持ちをうまく言葉で表現できないことや，思い通りにいかないことで，時には大人が困るようなことをすることも発育，発達の過程であることを理解して対応する。

□(3) 子どもの言葉を受け止め、意味づけを加えて応えながらやり取りをする。

□(4) 自分でできると言い張っても，きちんとできることは少ないので，保育者が適切と考えたこと以外はやりたがってもさせない。

□(5) 探索活動が十分できるように環境を整え，応答的に関わる。

□(6) 認める，受け入れる，励ます，共感する，伝える，気づかせる，ヒントを与える，誘う，一緒にする，期待を持たせるなどして，自分の思いや要求を自己主張できるように見守る。

□(7)「自立」を促すために甘えさせないようにして，自分の事は自分でするようにしていくことを強化していくことが養育者・保育者の役割である。

3. 2歳児クラスの担任となった時、保育者としてどのようなことを大切にしたいだろうか。自我の発達の観点から400字程度で考えを述べてみよう。